平成22年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書

2012年3月 甲州市教育委員会

平成 22 年度

市内遺跡発掘調査等事業報告書

2012 甲州市教育委員会 甲州市は塩山・勝沼・大和の各地域からなりますが、それぞれが独自の歴史文化を築いてきたため、豊富な文化資源に恵まれている市です。

遺跡についても同様で、市内には勝沼氏館跡・甲斐金山遺跡(黒川金山)の二つの国指定史跡が所在し、他にも多くの遺跡が眠っています。

本書は、平成22年度に国庫補助事業として実施した、市内遺跡発掘調査等事業にかかる報告書です。 22年度は4ヶ所の遺跡について試掘調査等を行っています。

今後も市内遺跡の保護保存が図られるよう、国・県のご指導もいただきながら、発掘調査事業を進めていきたいと考えておりますので、関係各位には一層のご協力をお願い申し上げます。

平成 24 年 3 月 30 日

甲州市教育委員会 教育長 保坂 一仁

例 言

- 1 本書は、平成22年度市内遺跡発掘調査等事業にかかる実施報告書である。
- 2 事業は、文化庁の国宝重要文化財等保存整備費補助金により行った。
- 3 事業の期間は、平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日までである。
- 4 本書にかかる出土品、図面、写真等の記録類は、甲州市教育委員会で保管している。

凡例

- 1 本書中、各遺跡の位置図は国土地理院発行の 1/25,000 地形図を、調査対象範囲図は 1/2,500 甲州市 都市計画基本図を改変して使用した。
- 2 縮尺、方位等は各図中に示してある。

目 次

序	
例言・凡例・目次	
第1章 遺跡の所在確認業務について	1
第2章 発掘調査等について	1
第3章 発掘調査等の概要	2
第1節 事業費	2
1 事業経費収支予算書	2
2 事業経費収支精算書	3
第 2 節 発掘調査等	4
1 梶畑 B 遺跡	4
2 千手院前遺跡	9
3 赤尾堰口堤防	13
4 西野原の堡跡	19
抄録・奥付	

第1章 遺跡の所在確認業務について

平成22年度の甲州市教育委員会における文化財関係組織は、次の通りである。

古屋正吾 甲州市教育委員会教育長

三森克弥 教育委員会生涯学習課長

飯島 泉 生涯学習課文化財担当リーダー

雨宮 亨 生涯学習課文化財担当

入江俊行 生涯学習課文化財担当

開発計画に伴う遺跡の所在確認と、不動産鑑定に伴う遺跡の所在確認については、22 年度は 177 件を 数えた。内訳は、開発計画に伴うもの 137 件、不動産鑑定に伴うもの 40 件であった。

第2章 発掘調査等について

遺跡の所在確認後、周知の包蔵地内において具体的な開発行為の計画がある場合について、文化財保護法第93条及び94条の届出を提出していただき、一部は甲州市教育委員会で立会いとし、4件については試掘調査を実施した。そのうち、本格調査が必要と認められた梶畑B遺跡、赤尾堰口堤防については発掘調査を実施することとした。梶畑B遺跡については、財団法人山梨文化財研究所に調査を委託し、平成22年10月1日~12月28日まで調査が行われ、赤尾堰口堤防については、甲州市教育委員会が平成22年10月7日~11月26日まで調査を行った。いずれも平成23年度中に報告書が刊行される予定である。

発掘調査等の体制は次の通りである。

発掘調査担当者 飯島・雨宮・入江

発掘調査・整理作業員 雨宮久美子・栗原礼子・沢登淳子・萩原里江子・深沢茂子・正木なつ子

第3章 発掘調査等の概要

第1節 事業費

1 事業経費収支予算書

収入の部

	金額	備考			
国庫補助金	1,350,000円	2,700 千円の 50%			
県費補助金	675,000 円	2,700 千円の 25%			
甲州市負担金	675,000 円				
計	2,700,000円				

支出の部

文田の即		
	金額	備考
報償費	0円	
旅費	0円	
賃金	1,600,000円	発掘 100 日× 7,000 円、整理 150 日× 6,000 円
需要費	564,500円	
消耗品費	65,000円	ピンポール、脚立、他
印刷製本費	499,500円	21 年度報告書 1,500 円× 300 冊× 1.05
委託料	0円	
使用料及び賃借料	535,500円	機械借り上げ 31,500 円 × 17 日
計	2,700,000円	

2 事業経費収支精算書

収入の部

(上段:予算額 下段:精算額)

VO C > HI		(工权・) 并版 「权・相并限/
	金額	備考
国庫補助金	1,350,000円	2.700 *
	1,350,000円	2,700 千円の 50%
県費補助金	675,000 円	2.700 J.H.O. 25 W
	675,000 円	2,700 千円の 25%
甲州市負担金	675,000 円	
	675,000 円	
計	2,700,000円	
	2,700,000円	

支出の部

(上段:予算額 下段:精算額)

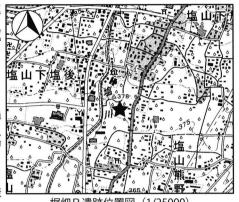
	(上段:予算額				
金 額	備考				
0円					
1,600,000円	※担フストロンフ 000 田 - 藤田 222 0 日ン 0 000 田				
1,934,500円	発掘 77.5 日× 7,000 円、整理 232.0 日× 6,000 円				
564,500円					
415,367 円					
65,000円	182/28 3 1941 4 1/6				
22,087 円	ピンポール、脚立、他				
499,500円	21 左座却从妻 1 500 田 2 200 田 2 1 05				
393,280円	21 年度報告書 1,500 円× 300 冊× 1.05				
0円					
0円					
535,500円	仮設ハウス借上げ 70,833 円、重機借上げ 252,000 円、				
350,133 円	他 27,300 円				
2,700,000円					
2,700,000円					
	0円 0円 0円 1,600,000円 1,934,500円 564,500円 415,367円 65,000円 22,087円 499,500円 393,280円 0円 0円 535,500円 350,133円				

第2節 発掘調査等

- 1 梶畑B遺跡
- (1) 所在地 甲州市塩山熊野 303 番地、他
- (2)調査面積 約65㎡
- (3)調査原因 市道下塩後22号線建設に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成22年6月18日~平成22年6月22日
- (5)調査結果

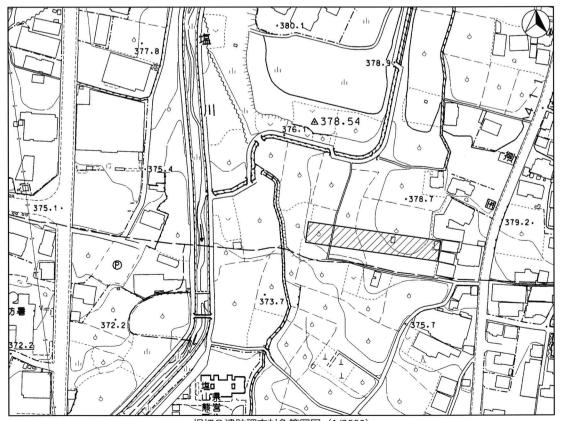
調査地は東西約 150m にわたる市道建設予定地で、そのうち比較的平坦面を残している延長約 100m の区間について、トレンチ(試掘坑)を5ヶ所設定し、重機による掘削を行った。

トレンチは掘り始めた東側から $A \sim E$ トレンチと呼び、試掘坑 A は幅 $1.5m \times E$ さ 13.7m を測る。試掘坑 B は幅 $1.4m \times E$ さ 2.6m を測る。試掘坑 C は幅 $1.3m \times E$ さ 16.3m を測る。試掘坑 D は幅 $1.3m \times E$ さ 4.5m を測る。試掘坑 E は幅 $2.6m \times E$ さ 5.2m を測る。調査の結果、すべてのトレンチからピット(小穴)のような遺構が検出され、特に試掘坑 E からは古墳時代の火災住居址が検出されている。

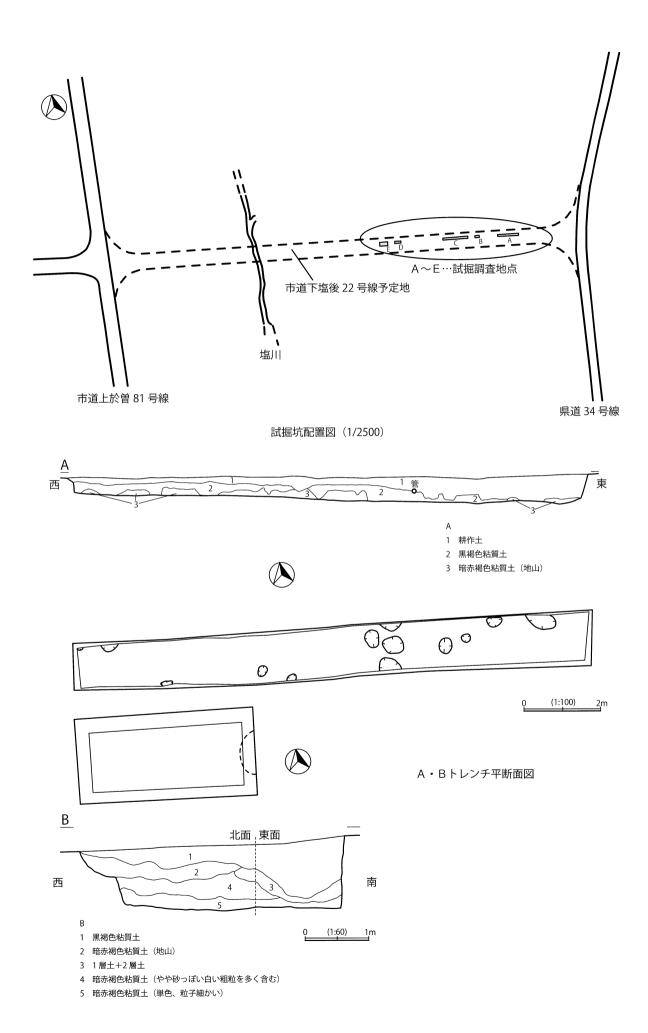


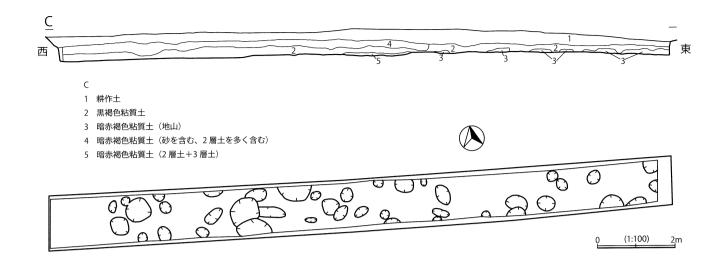
梶畑B遺跡位置図(1/25000)

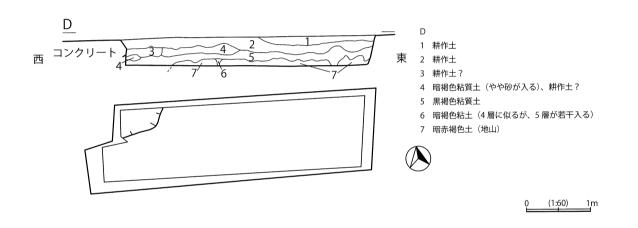
そのため、事業主体である市建設課と協議し、試掘坑を設定した 範囲及び試掘調査できなかった以西について、本調査を実施するこ ととした。

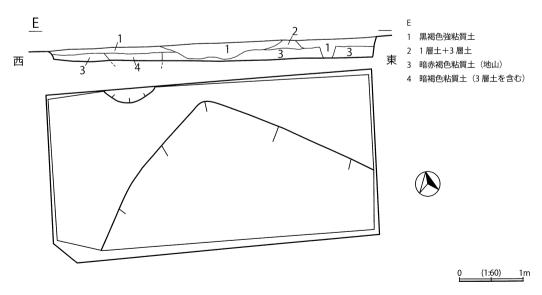


梶畑B遺跡調査対象範囲図(1/2500)









C・D・Eトレンチ平断面図

梶畑B遺跡写真図版



Aトレンチ (東から)



Aトレンチ (西から)



Aトレンチ (遺構検出状況)



Bトレンチ (西から)



Bトレンチ (東から)



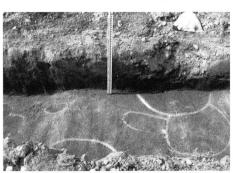
Bトレンチ(東側断面に表れた土坑)



Cトレンチ (東から)



Cトレンチ (西から)



Cトレンチ (遺構検出状況)

梶畑B遺跡写真図版



Dトレンチ (東から)



Dトレンチ (西から)



Dトレンチ (遺構検出状況)



Eトレンチ (東から)



Eトレンチ (西から)



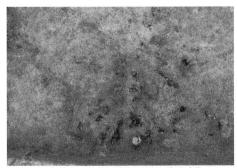
Eトレンチ(遺構検出状況)



Eトレンチ (火災住居跡)



Eトレンチ (火災住居跡)



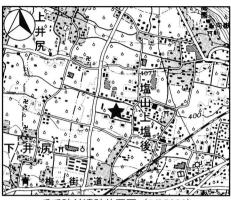
Eトレンチ (火災住居跡 炭化材)

2 千手院前遺跡

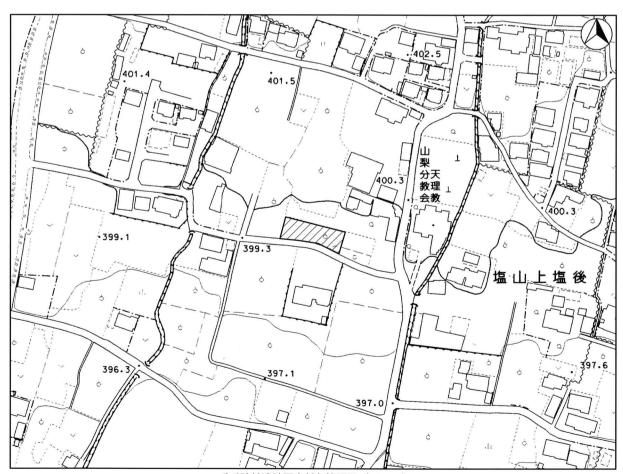
- (1) 所在地 甲州市塩山上塩後813
- (2)調査面積 約9㎡
- (3)調査原因 個人住宅建築に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成22年8月30日~平成22年8月31日
- (5)調査結果

千手院前遺跡はかねてより縄文時代の土器が散布していることが 知られており、調査地は包蔵地の東縁に当たることから、事前に試 掘調査を実施した。

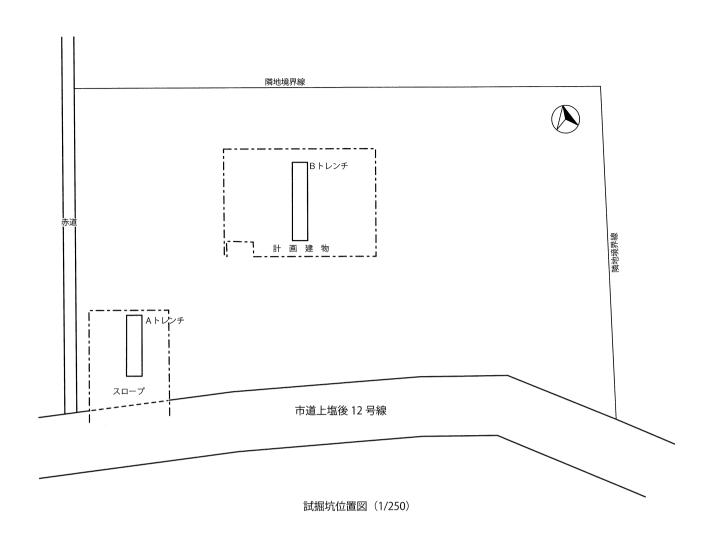
調査はトレンチを 2 本設定し、人力による掘削を行った。 A トレンチは幅 1.0m ×長さ 4.0m を測る。 B トレンチは幅 1.0m ×長さ 5.0m を測る。 両試掘坑から数点の土器が出土したが、遺構は検出されなかった。

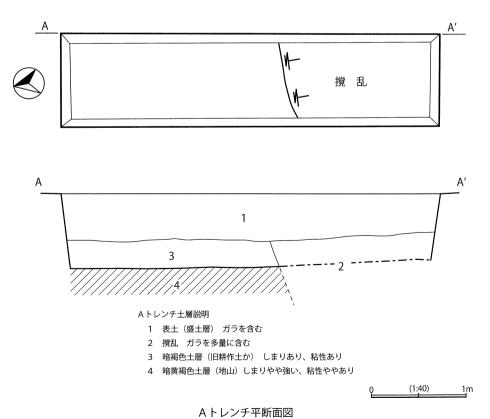


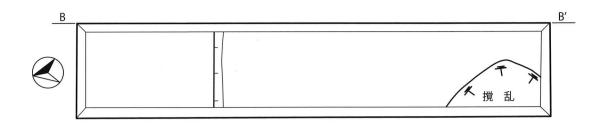
千手院前遺跡位置図(1/25000)

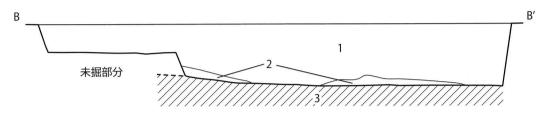


千手院前遺跡調査対象範囲図(1/2500)









Bトレンチ土層説明

- 1 表土(盛土層) ガラを含む
- 2 暗褐色土層(旧耕作土か) しまりあり、粘性あり
- 3 暗黄褐色土層(地山) しまりやや強い、粘性ややあり

しようとと強い、相性とと思う

Bトレンチ平断面図

千手院前遺跡写真図版

1m

(1:40)



調査前(東から)



調査前(Aトレンチの設定)



調査前(Bトレンチの設定)

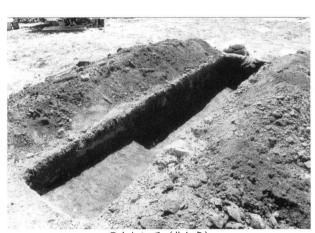
千手院前遺跡写真図版



Aトレンチ (西から)



Aトレンチ (南から)



Bトレンチ (北から)



3 赤尾堰口堤防

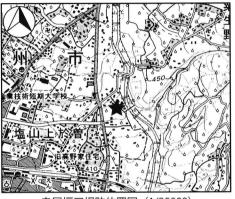
- (1) 所在地 甲州市塩山赤尾 229、265-1
- (2)調査面積 約920㎡
- (3)調査原因 店舗建設に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成22年10月7日~平成22年11月26日
- (5)調査結果

赤尾堰口堤防は、東を流れる重川より 150m ほど離れた地点に、

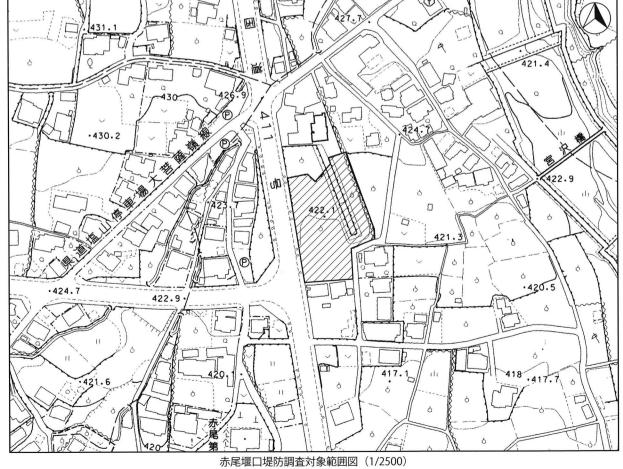
川と並行して築かれている。この堤防を削平し店舗を建設する計画 | が上がったため調査を行った。

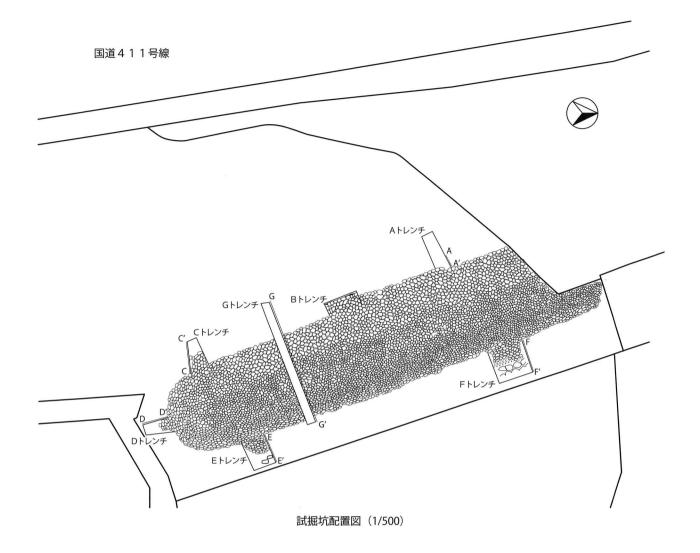
堤防に絡まった植物や石の目地に入ったゴミなどの清掃から始めれる め、その後裾部及び堤防断面にAからGまで7ヶ所のトレンチを設 定、埋没している本来の裾部の確認と土層観察を行った。

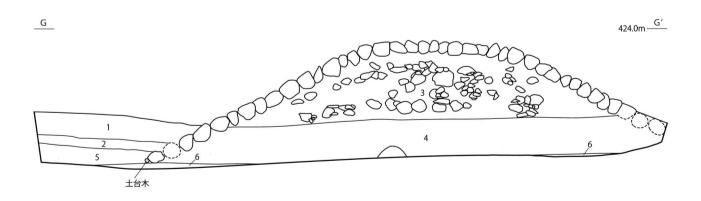
川表側の土層観察では、比較的厚い砂層が検出され、堤防設置後と 流れを止めるなどの機能を果たしていたことが確認された。川裏側 については、中央付近から梯子土台が出土した。形態は土台木の片 方を欠く片梯子状で、川裏側に設置されていた。また、川表側の巨 石を使った根固めには数字と思われる文字が確認でき、根固めに番 号を付けていたことが推測される。



赤尾堰口堤防位置図(1/25000)



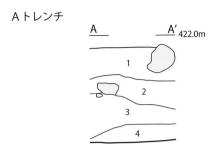




- 1. 暗灰褐色土層 砂質、しまり弱、粘性弱、小礫少量含む。
- 2. 茶褐色砂層 しまり弱、粘性弱、小礫少量含む。
- 3. 礫層 拳大〜人頭大の礫によって構成される。堤体。
- 4. 暗茶褐色砂層 しまり弱、粘性弱、拳大~人頭大の礫を多量含む。直径1mを越える巨礫を少量含む。
- 5. 暗灰褐色砂層 径20~50cm程の礫を含む。堤防築堤時の余材か。
- 6. 暗赤褐色砂層 しまり弱、粘性弱、赤みをおびた小礫を少量含む。湧水層。

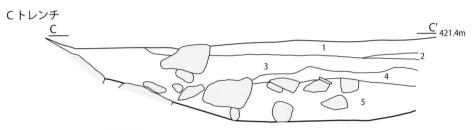
Gトレンチ断面図

(1:100) 2m



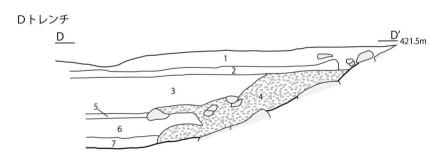
土層説明

- 1. 暗灰褐色土層 砂質、しまり弱、粘性弱、小礫を少量含む。
- 2. 暗灰色土層 砂質、しまりややあり、粘性弱、小礫を少量含む。
- 3. 灰褐色砂層 しまり弱、粘性弱。
- 4. 暗赤褐色砂層 しまり弱、粘性弱、赤みをおびた小礫を少量含む。本層から水が沁み出す。



土層説明

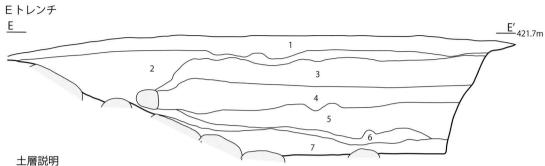
- 1. 暗灰褐色土層 砂質、しまり弱、粘性弱、小礫少量含む。
- 2. 明灰褐色土層 砂質、しまりやや弱、粘性弱。
- 3. 暗灰褐色土層 砂質、しまりややあり、粘性弱、小礫少量含む。
- 4. 明灰褐色砂層 砂質、しまり弱、粘性弱。
- 5. 明灰褐色砂層 径20~50cm程の礫を主体とする、堤防築堤時の余材か。



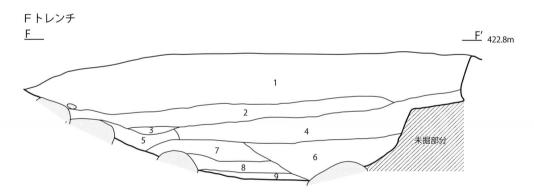
土層説明

- 1. 暗灰褐色土層 しまりあり、粘性あり、小礫を少量含む。
- 2. 暗黒褐色土層 しまりあり、粘性ややあり、小礫少量含む、炭化物を埋め立てた層。
- 3. 暗灰褐色土層 砂質、しまりあり、粘性ややあり、小礫微量含む。
- 4. 暗灰褐色土層 しまりややあり、粘性あり、径10~20cmの礫を主体とする、青灰色粘土ブロックを少量含む。
- 5. 暗褐灰色土層 しまりあり、粘性あり。
- 6. 暗灰褐色土層 砂質、しまりあり、粘性ややあり。
- 7. 灰褐色砂層 しまり弱、粘性弱。

0 (1:40) 1m



- 1. 暗褐色土層 しまりあり、粘性あり。
- 2. 暗灰褐色土層 しまりややあり、粘性ややあり、小礫微量含む。
- 3. 明灰白色砂層 しまり弱、粘性弱。
- 4. 暗灰褐色土層 砂質、しまりややあり、粘性弱。
- 5. 明灰黄褐色砂層 しまりややあり、粘性ややあり、同層内に粘性の高い暗灰色の粘土層が砂層と互層状に堆積する。
- 6. 灰色砂層 しまり弱、粘性弱
- 7. 暗赤褐色砂層 しまり弱、粘性弱、赤みをおびた小礫を少量含む。また、本層からは水が沁みだす。

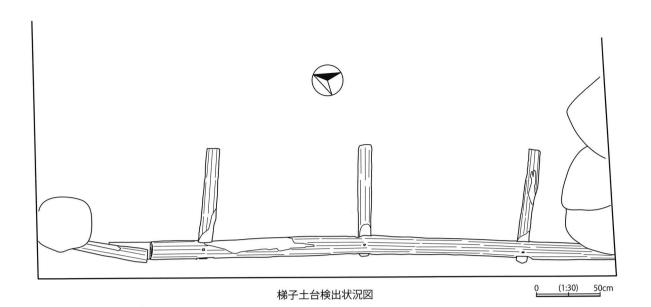


土層説明

- 1. 暗褐灰色土層 しまりあり、粘性あり、小礫を微量含む。
- 2. 明灰白色砂層 しまり弱、粘性弱。
- 3. 黒灰色土層 しまりあり、粘性あり。
- 4. 黒灰色土層 しまりややあり、粘性あり、径10~20cmの礫を多量含む、酸化鉄を少量含む。
- 5. 暗灰褐色土層 砂質、しまりややあり、粘性ややあり。
- 6. 暗灰褐色土層 砂質、しまり弱、粘性弱、径10~30cmの礫を多量含む。
- 7. 明灰褐色砂層 しまりややあり、粘性ややあり、粘性のある暗灰褐色砂と粘性のない明灰褐色砂が互層に堆積する。
- 8. 暗灰褐色砂層 しまりややあり、粘性あり、小礫を少量含む。
- 9. 暗赤褐色砂層 しまり弱、粘性弱、赤みをおびた小礫を少量含む。本層から水が沁み出す。

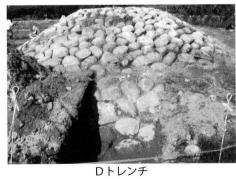
0 (1:40) 1m

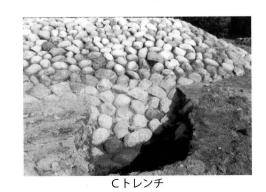
E・Fトレンチ断面図



赤尾堰口堤防写真図版













赤尾堰口堤防写真図版



Aトレンチ (断面)



梯子土台検出状況(東から)



Fトレンチ (断面)



空撮風景



堤防断面 (Gトレンチ)



Bトレンチ (梯子土台検出状況)



Eトレンチ (断面)



根石注記文字(36か?)



堤防断面(Gトレンチ)



クローラクレーンによる石の抜き取り作業

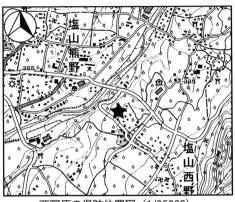
4 西野原の堡跡

- (1) 所在地 甲州市塩山西野原 282
- (2)調査面積 約16㎡
- (3)調査原因 個人住宅建築に伴う試掘調査
- (4) 調査期間 平成 22 年 12 月 27 日~平成 22 年 12 月 28 日

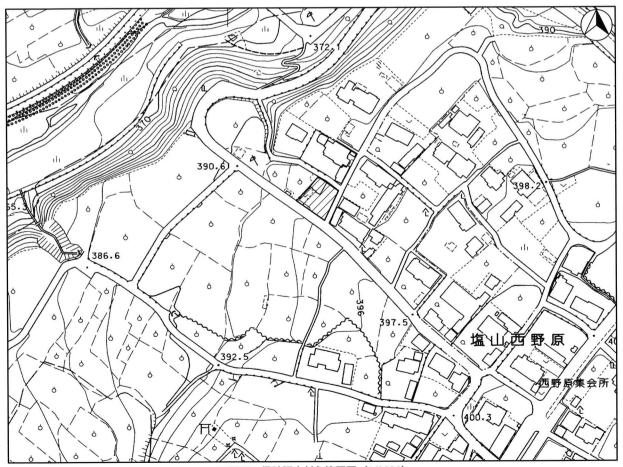
(5)調査結果

西野原の堡跡は、かねてより中世の城館跡とされ、『甲斐国志』にも記載されているが、詳細は不明である。調査地は最近まで資材置き場として利用されていたが、個人住宅が建設されるため、事前に試掘調査を行った。

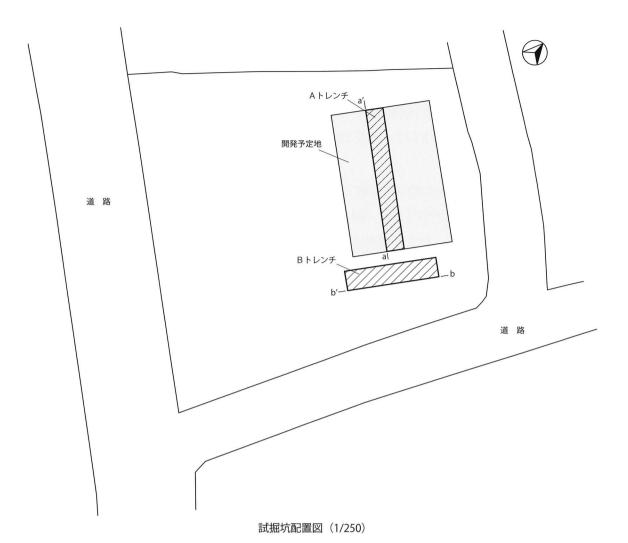
住宅予定地に1ヶ所(Aトレンチ)、浄化槽設置場所に1ヶ所(Bトレンチ)、計2ヶ所のトレンチを設定し重機で掘削、その後人力で精査し遺構の検出に努めたが、遺構・遺物とも発見されなかった。

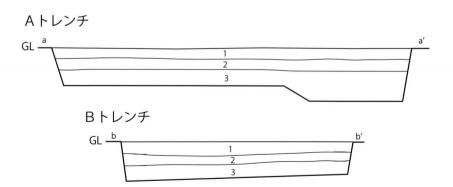


西野原の堡跡位置図(1/25000)



西野原の堡跡調査対象範囲図(1/2500)





土層説明

- 1 暗褐色土層 表土。しまりあり、粘性あり。
- 2 暗茶褐色土層 地山層。しまりやや強いが、ぼそぼそしている。粘性強い。白色粘土ブロック(径 10mm)微量含む。
- 3 茶褐色土層 地山層。しまり強い、粘性強い。白色粘土ブロック(径 10mm)微量含む。

A・Bトレンチ平断面図

0 (1:100) 2m

西野原の堡跡写真図版



調査前



重機による表土剥ぎ



Aトレンチ (西から)



Bトレンチ (南から)



調査前



Aトレンチ (東から)



Bトレンチ (北から)



報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさとうじぎょうほうこくしょ							
書名	平成 22 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書							
シリーズ名	甲州市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 12 集							
編著者名	飯島泉・雨宮亨・入江俊行							
編集機関	甲州市教育委員会							
所在地	〒 404-8501 山梨県甲州市塩山上於曽 1085-1 電話 0553-32-5097							
発行年月日	平成 24 年 3 月 30 日							

ふりがな	ふりがな	コード		コード 世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			神 直原囚
ゕゖぱたけびーいせき 梶畑B遺跡	たうしゅうしぇんざんくまの 甲州市塩山熊野 303 他	19213	塩 27	35° 41′ 43″		平成 22 年 6 月 18 日~ 22 日	約 65㎡	道路建設
せんじゅいんまえいせき 千手院前遺跡	まずしゅうしえんざんかみしまだ 甲州市塩山上塩後 813	19213	塩 59	35° 42′ 20″	138° 42′ 56″	平成 22 年 8 月 30 日~ 31 日	約 9㎡	住宅建設
あかおせぎぐちていぼう赤尾堰口堤防	にうしゅうしきんざんをかま 甲州市塩山赤尾 229,265-1	19213		35° 42′ 33″	138° 44′ 20″	平成 22 年 10 月 7 日~ 11 月 26 日	約 920㎡	店舗建設
にしのは5のとりであと 西野原の堡跡	たうしゅうしえんざんにしのは5 甲州市塩山西野原 282	19213	塩 201	35° 41′ 15″	138° 43′ 57″	平成 22 年 12 月 27 日 ~ 28 日	約 16㎡	住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
梶畑B遺跡	集落	縄文・古墳・ 平安・中世	竪穴住居跡・ ピット	縄文土器・土師器	Eトレンチから古墳前期の 焼失住居跡を検出。
千手院前遺跡	集落	縄文時代	なし	縄文土器	耕作土中から縄文土器片を 検出。
赤尾堰口堤防	堤防	近代	堤防	陶磁器片、梯子土台	堤体内は礫のみで構築。土 台は片梯子土台と呼ばれる もので、川裏側から検出さ れた。
西野原の堡跡	城館	中世	なし	なし	『甲斐国志』に記載のある城 館推定地内での調査であっ たが、調査区内では遺構・遺 物を認めることはできなか った。

山梨県甲州市

平成 22 年度 市内遺跡発掘調査等事業報告書

2012

編集 甲州市教育委員会 生涯学習課

山梨県甲州市塩山上於曽 1085-1

0553-32-5097

発行 甲州市教育委員会

平成 24 年 3 月 30 日

印刷 有限会社 天野印刷所